

御復活2015年

わたしたちの人生におけるすべてのことは—今日もイエスの時代のように—出会いによって始まります。この「人」、ナザレの大工、どんな人とも同じであると同時に異なる人との出会いです。使徒たちとイエスとの最初の出会いを語るヨハネの福音書（1, 35-42参照）を思い起こしてみましょう。アンデレ、ヨハネ、シモン。彼らは心の奥底までを見つめられ、心底を知られたと感じたのです。それが彼らの内に驚嘆、驚きを生み出し、次の瞬間に「彼」に結ばれていると感じさせたのです…

出会いについて話しているとカラヴァッジョの“マタイの召命”が頭に浮かびます。ローマに来るたび、サン・ルイジ・デイ・フランチェージ教会に足を運び、このカラヴァッジョの絵の前で立ち止まって見つめていました。金銭欲に燃えるマタイを含め、そこに居合わせた誰一人としてマタイを指していた指のメッセージを信じることはできなかったのです。憐れみを持ってマタイを見つめ、従うよう選んでいたまなざしのメッセージを。彼は出会いの驚きを感じていたのです。

出会いの特別な場はイエス・キリストの憐れみの愛撫です。

教皇フランシスコ

ルイジ・ジュッサーニ神父の補天10年と運動の60年を記念してコムニオーネ・エ・リベラツィオーネとの謁見でのお言葉より。2015年3月7日、ローマ、サン・ビエトロ広場



カラヴァッジョ、聖マタイの召命（部分）、1599-1602年。サン・ルイジ・デイ・フランチェージ教会、ローマ。
Foto: ©Mondadori.

コムニオーネ・エ・リベラツィオーネ